

晩秋——自身の人生にも重なる、しみじみと感慨深い季節になりました。毎度格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

三十年余の長きに亘り、拙いお便りを差し上げ続けてまいりましたが、いよいよ本ダイレクトメールをもちまして、最後のそれとさせて頂きます。

また弊社の経営そのものも、平成五年以来「徳仁天皇を奉じて、環境問題を抜本解決する」を絶対的、大義と定め、真実命懸けて舵取りし続けてまいりました。

故に万一それが叶わなかった場合は、潔く廃業して別の道をと考えております。

今上を 独り残して われ逝かば 国も世界も 滅ぶほか無し

「不自然」は、イコール「反神仏」でございます。

「人間とは何か」「人生とは何か」「幸せとは何か」等々、人生の重大真実を何一つ知らない「不自然人類」が、この無限の大宇宙を完璧に統べる「神仏」に抗いつつ、生存し続けられる可能性は絶無であるのでございます。

最後に、今夏のカタログでもご紹介しましたが、拙著『救世論文三部作』を再度掲出して、永久とわの別れのご挨拶代わりとさせて頂きます。

ただし、徳仁天皇の次元違いの賢さを深々と知る私自身は、国際的根回しさえ済めば、必ずお起ちくださるに違いないと今なお固く信じております。

「人類根本救済」の絶対的必要性は、既に十分お分かりのほすであるからです。それではどちら様も、幾久しくご健勝にてお過ごしください。さようなら。

令和六年 晩秋

覚者 播磨屋助次郎 敬白